

明治大学文学部主催

大友良英氏 講演会

「即興と社会」—震災後に生まれつつある新しい祭りをテーマに—

11/30 (金)

時間 18:30~20:30

場所 明治大学駿河台キャンパス
アカデミーホール (アカデミーコモン3F)

入場無料・予約不要

※満員の場合はお断りすることがあります

楽器等持参! ※なくても参加可



「photo by Soshi Setani @ Yatsui Festival」

今回は「フェスティバルFukushima!」や「札幌国際芸術祭」等のディレクションをする中で見えてきたことをテーマに語りたいと思います。震災後「多様化」あるいは「社会包摂」をキーワードに各地で様々なアートイベントや祭り（フェスティバル）が行われています。目指す方向はそれでいいとして、実際の方法そのものが従来のままであると、結局は「多様化」の名の下に強者の側に弱者が包摂されていくことにもなりかねないとの危機感をわたしは感じています。音楽の手法の一つであると思われる「即興」ですが、実はそこには「社会」を作っていく上での非常に豊かな可能性が含まれているうえに、従来の強者や弱者といった視点が無化されたり、新たな価値観を生み出したりする可能性を含んでもいる…そんなふうになわたしは感じています。

音楽の世界で行われてきた「即興」によるアンサンブルを丁寧に見ていくことが、もしかしたらこの先の社会を考えていく上で重要なのではないかな。言語にたよりがちな「思想」を考える上でも、非言語的な「即興」をキーワードにアンサンブルを見ていくことは有効なのではないかな。そんなことをテーマに、会場にいるみなさんとの実演も交えながら話していければと考えています。

※ 今回、この講演をする上で、ぜひ会場にいらしたみなさんに、可能であれば楽器、または音の出るものを持ってきてほしいと思っています。楽器の演奏経験やスキルは一切問いません。音の出るものであれば鍋やヤカンでもかまいません。実際に即興でのアンサンブルをその場で試してみたいと思います。とはいえ講演聴講の必須条件ではありませんので、あくまで持ってこれる方はぜひ、そうでない方もどうかお気軽に参加ください。

大友良英氏 経歴

1959年 横浜生まれ、福島育ち。1983年明治大学文学部中退。映画やテレビの音楽を山のように作りつつ、ノイズや即興の現場がホームの音楽家。展示作品やら、一般参加のプロジェクトやプロデュースワークも多数。震災後は思春期を過ごした福島での活動も。またその活動で2012年には芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門を受賞。2013年「あまちゃん」の音楽でレコード大賞作曲賞受賞。2017年札幌国際芸術祭の芸術監督を務める。現在2019年NHK大河ドラマ「いだてん」の音楽を制作中。